

様式 1

基金番号 東基 第 4 4 9 号  
基金名 東日本硝子業厚生年金基金

# 長期運営計画

(基準日：平成 2 1 年 3 月 3 1 日)

様式 2

基金番号：東基 第 4 4 9 号

基金の現状について

基金名：東日本硝子業厚生年金基金

<p>概況</p> <p>現状、給付費が掛金収入を上回る等、成熟度が高まってきている。当業界への景気低迷の影響、現業部門の海外進出の進展等から、今後加入事業所数は減少し、加入者数の減少が予想される。</p> <p>当基金の設立母体は東部硝子工業会であるが、母体に所属しない加入事業所の比率が高まりつつある。また、加入事業所については、従業員 30 名程度の中小企業が多い。</p> <p>財政運営面においては、加算部分の給付水準の見直し等を行い積立不足の解消を行ったが、事業所の掛金負担を勘案した結果、引続き予定利率は 5.5% を維持せざるを得ない状況であった。</p> <p>資産運用面においては、基本的には、予定利率 5.5% を長期的に達成することを基本方針としている。ただ昨今の相場動向を踏まえ、現状は期待収益率 4.5% の水準の運用を行っている。</p>
--

分析項目	現状の評価
(1) 制度設計	
予定利率(プラスアルファ部分)	現在、年利 5.5% としている。実現可能な運用利回りとの対比において、やや高めの水準に設定している。
掛金水準(プラスアルファ部分)	必要な掛金率を都度手当てしてきており、妥当な水準となっている。
給付水準(プラスアルファ部分)	現在、プラスアルファは約 15% であり、妥当な水準である。
特別掛金(代行部分、プラスアルファ部分)	代行部分(≒基本部分)の特別掛金率は 25/1000 であり、若干高めの水準にある。制度全体で考えると、全体の掛金額の約 37% が特別掛金額になっており、特別掛金は若干高めの水準にあると考えられる。
(2) 運用方針	
代行部分(目標利回り、政策アセットミックス)	長期的には 5.5% を目標。昨今の運用環境を勘案し、平成 21 年度の政策アセットミックスは、期待収益率 4.5%、リスク 10.2% としている。
プラスアルファ部分(目標利回り、政策アセットミックス)	同上
(3) 基礎構造	
業界の構造変化	昨今の景気低迷化、当業界への影響も大きい。また低廉な労働力を求めて、中国を中心に海外進出する事業所も多く、今後加入事業所の減少が懸念される。
基金の加入員数の動向	加入員数・平均年齢共に横ばいで推移しているが、上記の通り、今後加入員数の減少が予想される。
基金の成熟度の動向	掛金収入と給付費が逆転しており、今後、掛金収入見込は横ばいの水準と予想されるのに対して給付費の増大が見込まれる状況である。年金受給者、年金受給待期者の給付債務は、制度全体の給付債務の 1/2 程度の水準となっている。
その他基礎構造について	特になし。
(4) その他	特になし。

様式3

基金番号：東基 第 4 4 9 号

実施計画の方向性について

基金名：東日本硝子業厚生年金基金

概況  
 資産運用面においては、成熟度の高まりもあり、恒常的にマイナスの収支差が予測される中で、安定的な運用収益の確保が必要であると考えられることから、リスクをおさえた安定志向の資産運用を目指す方向で検討したい。  
 また、この場合、リスクの引下げに伴って、期待リターンが低下することが想定されることから、現状 5.5%であるプラスアルファ部分の予定利率については引下げる方向で検討したい。  
 しかしながら、掛金水準の引上げを伴う予定利率の引下げについては、現状の経済状況もあり、各事業所の掛金負担余力に乏しい状況であることから、景気の回復、運用環境の改善による積立不足の解消を待って検討することとしたい。

分析項目	現状の評価
(1)制度設計	
予定利率(プラスアルファ部分)	実現可能な運用利回りを基準に考えた場合、予定利率 5.5%の引下げが必要であると考えられるが、当該変更は掛金水準の引上げを伴うことから、経済状況並びに資産運用環境の回復を待って、検討することとしたい。
掛金水準(プラスアルファ部分)	各事業所の業況等を勘案すると、現状では掛金水準の引上げは困難な状況であることから、景気回復を待って対応を検討したい。
給付水準(プラスアルファ部分)	プラスアルファの水準から単純に考えれば、加算部分について給付水準の引き下げ余地はあるものの、過去に加算年金の給付水準の引き下げを実施済みであり、再度の引下げは、厚生年金基金の存在意義にもかかわることから、極力、現状維持の方向性としてほしい。
特別掛金(代行部分、プラスアルファ部分)	制度全体の掛金額の約 37%程度が特別掛金額になっていることから、現状の経済状況等を勘案すると、特別掛金の引上げ余力は小さい。
(2)運用方針	
代行部分(目標利回り、政策アセットミックス)	厚生年金本体の積立金の運用におけるリスク、期待リターンを勘案し、必要な運用利回りの確保が可能な基本アセットミックスを検討したい。 成熟度の上昇もあり、一定程度運用収益によって給付費をカバーしていく必要があることから、安定的な運用収益の確保も念頭に置いた検討を行いたい。
プラスアルファ部分(目標利回り、政策アセットミックス)	現状の資産運用におけるリスクを引下げ、プラスアルファ部分の予定利率に応じた期待リターンを確保可能な基本アセットミックスを検討したい。 成熟度の上昇もあり、一定程度運用収益によって給付費をカバーしていく必要があることから、安定的な運用収益の確保も念頭に置いた検討を行いたい。
(3)基礎構造	
業界の構造変化	当業界においても、景気低迷の影響は大きく、加入事業所の収支状況は芳しくない。
基金の加入員数の動向	現在の経済状況の継続により、各事業所における被用者の減少が懸念されるところであり、今後、加入員数の推移を注視していく必要があると考える。
基金の成熟度の動向	受給者等の増加に伴い、成熟度は必然的に上昇せざるを得ない状況にある。
その他基礎構造について	特になし。
(4)その他	特になし。